

昭和63年度技術開発実施報告書

課題	イテイガシの人工林を複層林へ誘導する施業方法について		継続・新規別 経常・特別別 指示・自主別	新規 経常 指示	担当	技術開発室	開発箇所	大分 (佐伯)	期間	昭和63年度 平成4年度
	全体計画	実施報告			昭和63年度実施計画	評価及び普及計画				
		昭和62年度までの実施経過を記入のこと	昭和63年度実施結果を記入のこと							
1. 複層林施業技術体系の確立のため現存する林分の択伐を実施すると共に搬出の方法の検討  2. 択伐後の人工更新技術の確立	該当なし	青山国有林141ろ林小班(山口担当区部内)3.20HAの内イテイガシ生立区域実測面積2.99HAを技術開発試験区域と定め、その内昭和63年度複層林施業区域0.91HAを設定し20m幅2列の0.47HAの列条択伐の収穫を実施する。  イテイガシ242本152m <sup>3</sup> の資材に対し素材130m <sup>3</sup> を臨直により生産し販売委託等により330万円余の収入をあげた。 収穫跡地の0.47HAにイテイガシ800本ケヤキ400本を複層林として植栽した。 また、野兎防除対策として周囲約500mに古漁網を張り回す。	1. 複層林施業を前提とした択伐による収穫調査並びに販売の実行  2. 択伐跡地の複層林施業による人工更新	イテイガシ人工林66年生林分0.47HAについて立木材積152m <sup>3</sup> を収穫する。  これを臨直により素材130m <sup>3</sup> を生産販売し330万円を売り上げる。  上記跡地について複層林下木としてイテイガシ800本ケヤキ400本を植栽する。  イテイガシについては活着率向のため緑葉3分の1を残しつつみとる。  野兎防除対策として古漁網を張り回す。						

# 試験経過記録(その1)

大分営林署

結果写真

イチイガシの人工林を複層林へ誘導する施業方法について

公益的機能の高度発揮及び多様な木材需要に対する複層林施業技術体系の確立を図り併せてイチイガシ幼齢林施業方法を検討することを目的とする複層林施業の試験をするものである。

1. 昭和63年12月青山国有林141ろ林小班イチイガシ人工林複層林試験箇所収穫調査実施  
実測区域面積2.99HAの内昭和63年度複層林実施区域として0.91HAを設定する、0.91HAの内0.47HA(20m幅2箇所)を択伐区域として設定し区域内立木調査を実施する。  
イチイガシ生立木242本の152m<sup>3</sup>
2. 平成元年1月択伐区域0.47HAについて臨直により素材生産を行う素材130m<sup>3</sup> 売上額330万円  $2600000/m^3$
3. 平成元年2月基職(造林)により地拵実行同直営(臨時日雇)にて野兎防除対策として古漁網を周囲に設置する。
4. 平成元年3月直営(臨時日雇)によりイチイガシ800本ケヤキ400本を植え付ける、なお、イチイガシについては活着率の向上を図るため緑葉3分の2程度むしりとり植え付けた。
5. 試験地標板を設置する。

昭和 元年度

收穫予定箇所 奥野川

測量者名  
氏名

製図者名  
氏名

大分 事業区

青山 国有林

1413 林班

小班

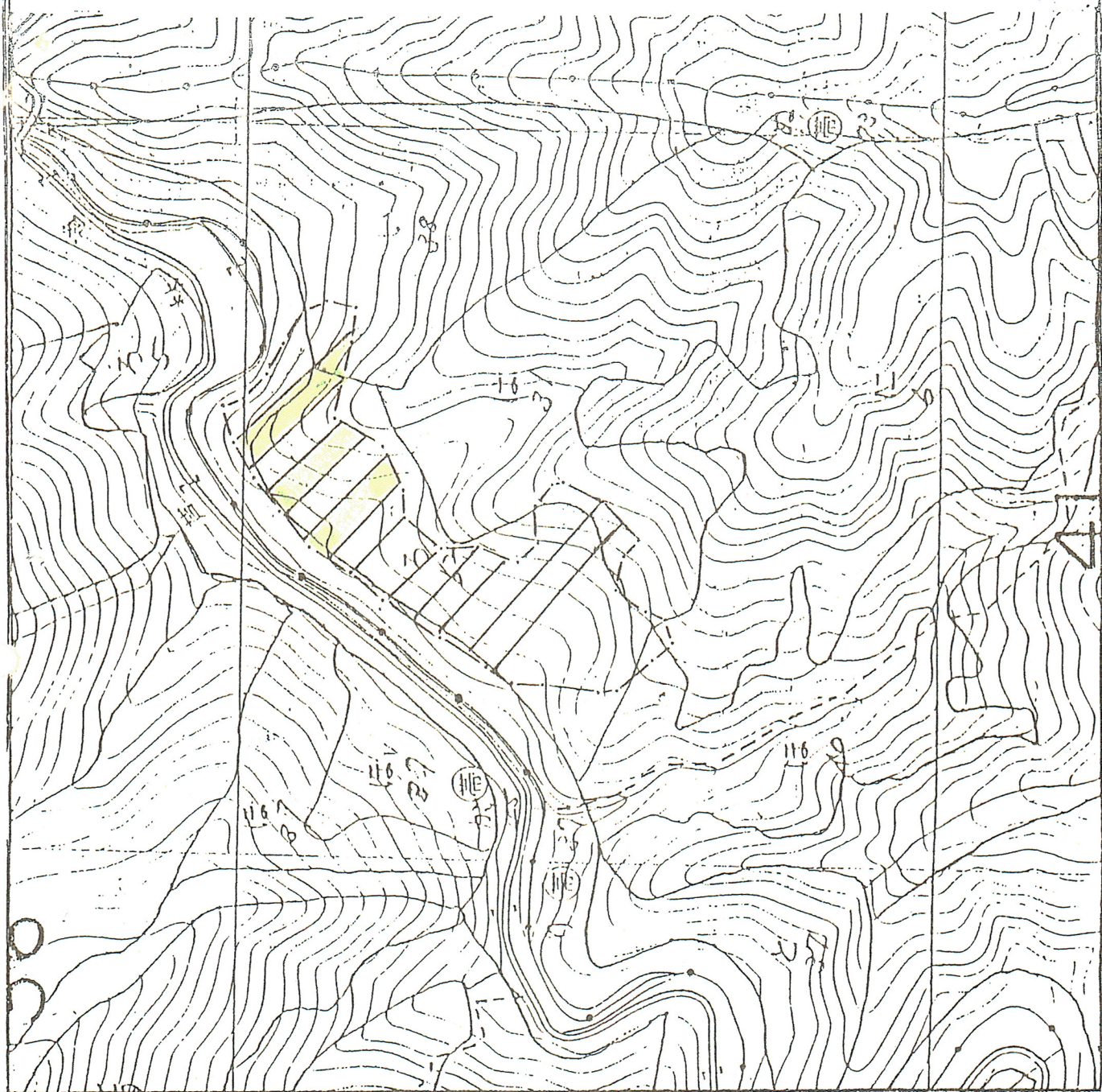
全・内・残

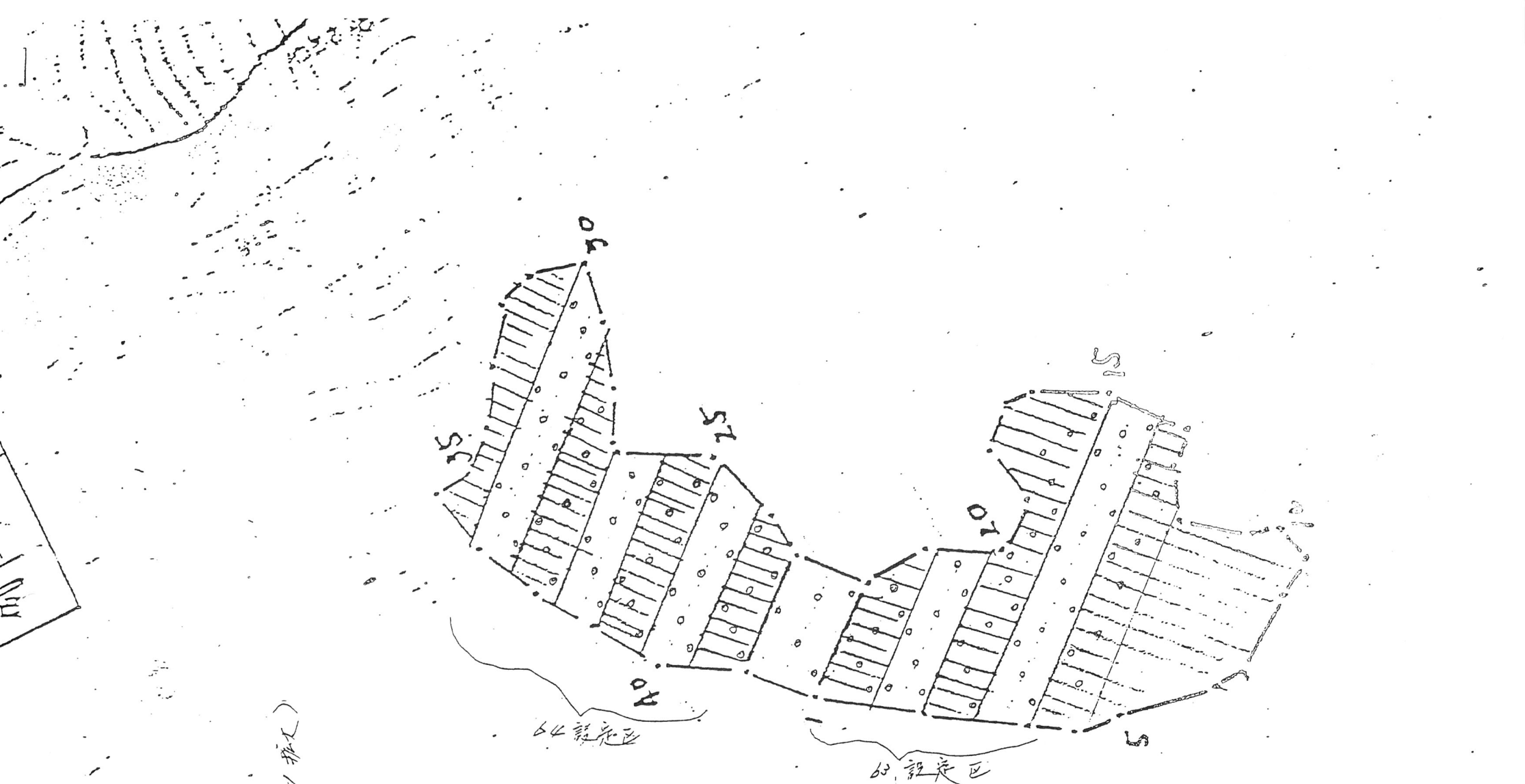
收穫区域面積

0.50 ha

標準地面積

ha





( $\frac{5000}{1000} \times 100 \times 100$ )  
 (2000 x 100 x 100)

- A. 照度調查
- ① 伐採区 50 英尺
  - ② 残存区 50 英尺
  - ③ 晴向 10~12 時
  - ④ 向さく  
 中央部 20 mL 程度  
 林縁部 中央部の中間  
 以上 縁部の 2 mL 程度

⑤ 63 年 9 月 12.7 調査  
 64 年 9. 21 調査

# 状 況 写 真

区 分 指 示

大分 営林署

( 様 式 6 )

青山国有林141ろ林小班イチイガシ人工林66年生林相



列状択伐による林内照度の変化



右同林分列状択伐（伐倒）実行箇所



右同



# 状 況 写 真

区 分	指 示
-----	-----

大分 営林署

( 様 式 6 )

イチイガシ人工林(66年生)林内



同右



列状択伐搬出跡地



# 状 況 写 真

区分 指示

大分 営林署

( 様式 6 )

列状択伐箇所地拵実行状況



防除網設置完了



野兎害防除対策防除網設置作業



防除網設置完了

